

障害のある児童生徒の教材の充実に関する 検討会

発表資料

平成25年7月17日

長崎県教育委員会
 NAGASAKI Prefectural Board of Education

障害のある児童生徒の教材の充実 —長崎県の特別支援学校の現状と課題—

- ICTを用いない(紙媒体等)教材や自作教材
→個々の児童生徒の障害や特性に応じた教材が活用され、成果が蓄積されている。
- デジカメ、ビデオ、プロジェクタ、PC等のICT教材
→視覚的な提示による教育効果の高まりにより普及
- 電子黒板、タブレットPC等の最新のICT機器
→導入数も少なく、学校独自で活用研究を行っている状況。
※今後、県教育委員会として組織的な取り組みに発展させる必要がある。

長崎県教育委員会としての施策の方向性

長崎県教育ICT化推進事業
(平成25～27年度)

ICT教育推進事業



遠隔授業による
教育活動充実事業

長崎県教育ICT化推進事業

- ICT教育推進事業
 - ・研究指定校
(小中学校12、高等学校4、特別支援学校1)
 - ・ICT支援員の配置
 - ・電子黒板やタブレットPC等のICT機器の効果的な活用実践、成果の発信

長崎県教育ICT化推進事業

■遠隔授業による教育活動充実事業

- ・研究指定校(高等学校16、特別支援学校1)
- ・免許外教科担任等の授業支援
- ・学校間の交流学习等の促進

教材の充実方策の具体例

特別支援学校における「ICT教育推進事業」の取組から

研究指定校:長崎県立諫早特別支援学校(肢体不自由)
研究テーマ:「ICT機器を活用した効果的な学習について」

■研究の位置づけ

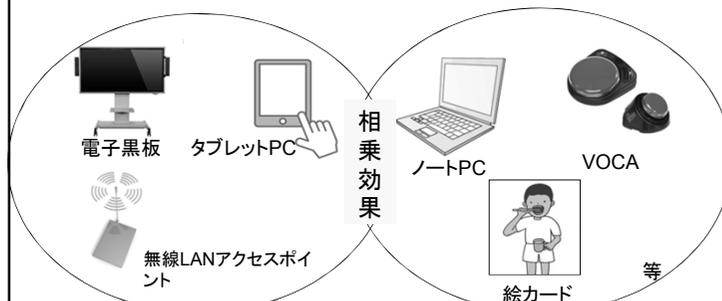
情報の収集・編集・表現・発信の可能性
がより拡大

新たな
ICT機器の活用

これまでの学習＝基盤
(ICT機器活用を含む)

■機器の充実

・新たな機器だけでなく、これまで活用してきた機器や教材も組み合わせて活用を図る。

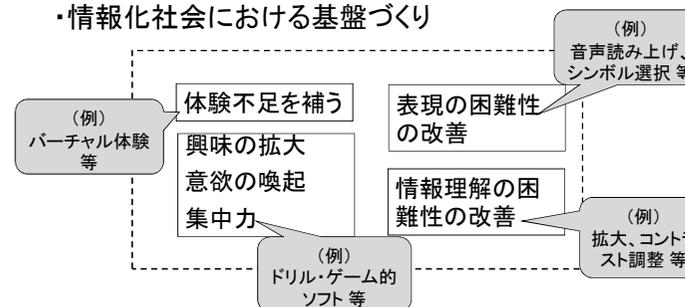


新規導入予定の主なICT機器

これまで活用してきた機器・教材

■期待される教育成果

- ・認知や運動面の特性に応じた学習の実現
- ・主体的な意思の表現、コミュニケーションの拡大
- ・情報化社会における基盤づくり



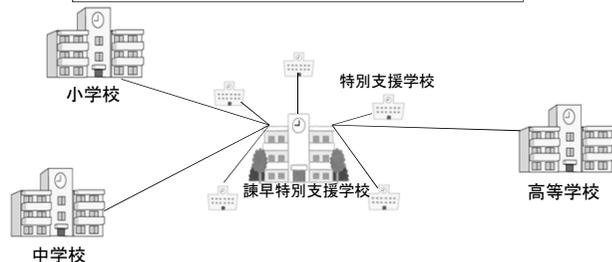
教育課程や障害の特性等を視点に事例を集約・蓄積

■他の特別支援学校、小中学校、高等学校へ 研究成果を発信

- ・教員への支援、研修協力、教材の紹介等のセンター的機能

↓

今後の機器導入時に参考となる指導方法
既存の機器等を応用した指導のヒント



小中学校、高等学校における教材充実

■電子黒板、タブレットPCを用いた授業

- ・視覚的に課題をとらえやすい
- ・いつでも振り返りができ、繰り返し課題に取り組める
- ・操作に対して確実な反応をしてくれる

- ▶特別な支援が必要な児童生徒にこそICT機器は有効
- ▶苦手な児童生徒には「ないと困る」、得意な児童生徒には「あって便利」な支援

■ICT支援員

- ・機器の設定・調整
- ・教員へのICT活用研修
- ・授業におけるICT活用支援
- ・教材の作成支援



支援員の機器の操作、活用の専門性

基盤となる特別支援学校教師の指導の専門性

今後の課題

■ICT教育推進事業の確実な実施

■研究指定校以外の特別支援学校における教材(支援機器を含む)の活用状況の把握と分析

■機器の進化等将来を見据えた教材整備の計画作成